

JBC IBAJ 文部科学大臣杯 第60回全日本大学選手権 12月2~4日/川崎グランドボウル

男子・青森中央学院大が4年ぶり3度目V
女子・同志社大は41年ぶり2度目の戴冠

60回目を迎えた全日本大学ボウリング選手権大会が、12月2日から3日間、神奈川県川崎市の川崎グランドボウルで開催された。男子は青森中央学院大学が昨年準Vのリベンジを果たし、4年ぶり3度目の優勝を飾れば、女子は同志社大学が第19回大会以来実に41年ぶり2度目の選手権校に輝いた。(主催:(公財)全日本ボウリング協会)



▲「昨年準優勝に終わったときの先輩の分もリベンジをという思いで臨んだ」と石田智輝選手



▲「昨年3位、昨年2位だったので、やっと勝ててうれしい」と3年生の佐々木諒選手



▲41年ぶり優勝の同志社大学(左)と4年ぶり3度目の優勝の青森中央学院大学

男子

男子(5人チーム)は、予選(9G)1回戦を3078とスタートダッシュを決めたディフェンディングチャンピオンの沖縄国際

大学(西島本・中里・比嘉・登川・中里・仲間)が8801で1位、名古屋産業大学(瀬戸・小林・大藪・山下・林・山田・辻井)が8673で2位、青森中央学院大学(石田・中村・吉原・佐々木・石岡)が8530で3位

につけていた。準決勝(3G)では沖縄国際大学が2731と苦しんだのに対し、会心のチーム戦で3097と伸ばした青森中央学院大学がトータル11627でトップを奪い、2位の沖縄国際大学は95ピン差、さらに92ピン差で名古屋産業大学が続いていた。



▲「トップを務めたキャプテンの石岡大空選手」この大学選手権を最大目標にしているのが、最高の形で終わらせてよかった



▲3年生で初めてAチーム入りした中村祐麻選手「とにかくイメージをしないように心がけた」



▲1年生ながらアンカーを務めた吉原正明選手「1年目で優勝することができたので、連覇を伸ばしていきたい」

決勝(3G)は、青森中央学院大学が勝負を決定づけた2G目の1077を含む2867を打って、トータル14494で快勝、4年ぶりの王座奪還を果たした。沖縄国際大学は連覇こそ逃したが、2位の座は守った。

女子

2人チーム戦の女子は、予選2回戦の1299を含む3579を打った同志社大学(戸塚・石本・

雨堤)が1位、前年優勝の京都産業大学(安田・立花・谷口)が142ピン差の2位につけていた。

準決勝を1164とまとめ、京都産業大学との差を184ピンと開いた同志社大学は、決勝も1193を打ってトータル5936で、41年ぶりの優勝を飾った。京都産業大学は決勝もペースが上がらず、青森中央学院大学(須藤・高橋)が5ピン逆転する5603で2位に入った。



▲「昨年3位だった悔しさをバネに練習を積んできたので、優勝できてうれしい」と戸塚真由選手



▲1年生で優勝の石本恵梨奈選手「先輩の足を引っ張ってしまったけど、決勝は貢献できてよかった」

FOCUS UP特別編 “アクティブシニア”安藤徹さんが推奨する「定年過ぎたら健康ボウリング」

今回、本欄でご紹介する安藤徹さん(83歳)は、いわゆる競技ボウラーではなく、地元センターやNBFのリーグでボウリングを楽しむ一般のシニアボウラー。昨年、かつての職場である老舗百貨店・三越で「全国ボウリングを楽しむ会」が開催されたのを機に、OB会報誌に日頃の思いを綴って投稿したところ、全国各地の旧友たちからたくさんの方が届いたという。



▲安藤さんは左利き。投球フォームは流麗で、83歳とは思えないパワフルなボールを投げる

安藤さんは1958年に三越へ入社。日本橋本店の趣味雑貨部ほかで42年間勤務し、99年に定年退職した。若いころからスポーツ好きで、三越在職中はスキー部や軟式テニス部で活動。スキーは技能テスト1級の腕前だったという。

一ペースでゴルフに興じていたが(ホールインワンを2回記録!)、先にボウリングを始めていた妻・三恵子さんの勧めもあって一緒にやることに。「最初のころはなかなかうまく投げられなくて、ストレスがたまりました」と苦笑する。

「東京都百貨店スキー大会の回転競技に3年連続で出場しました。伊勢丹にはオリンピック選手の多田修さん(60年スコアバレー五輪代表)がいて、回転競技のポールセッターはあの三浦雄一郎さんが務めていました」

上達を期し、当時通っていた上尾スポーツレネズ(2012年12月閉鎖)のボウリングスクールに参加。平山友子プロ(8期)の指導で基礎から学び直すと、徐々にスコアも上がっていき、気がつけばセンターのリーグにも参加して心からボウリングを楽しむようになってい

たという。「スーパーボウル大宮(10年6月閉鎖)で3年間、杉本勝子プロ(4期)のレッスンも受けました。杉本プロは厳しい人で、他の生徒さんを指導しているときに、離れたところでいい加減に投げている!?」なんて、よく怒られました(笑)」

今は杉本プロが解説を務めるスカイAのプロボウリング中継を欠かさず視聴し、的確な解説を自身のボウリングの参考にしているようだ。

上尾スポーツレネズ閉鎖後の2011年、安藤さんはリーグの仲間とともにホームセンターを川越市のウニクスボウルへ移し、現在に至る。自身を含め、シニア男子10名・同女子3名が参加する「やまぶきリーグ」での22年アベレージは179(HC8)。ちなみに、過去最高スコアは300! 15年に入会したNBF埼玉上尾支部の練習ゲームで達成したそうだ。

OB会報誌への投稿が反響

昨年、三越旧友会主催で「全国ボウリングを楽しむ会」と銘

打った初のボウリング大会が、全国9地区で開催された。安藤さんも首都圏地区の大会(会場はラウンドワン池袋店。年齢性別ハンデありの2Gマッチ)に出場。慣れぬレーンに苦戦し、成績は振るわなかったが、それでも75歳以上の男性ではトップのスコアで「おめでとう賞」をゲットした。



▲同じ「やまぶきリーグ」に参加している3名のシニアレディさんと。みなさんともお元気で生き生きしていた。右端が安藤さんの妻・三恵子さん

だが、何よりうれしかったのは、OB会報誌「旧友会だより」に「定年過ぎたら健康ボウリングを始めよう。」と題して投稿した一文が全国各地の旧友たちの目に止まり、大勢の人から連絡があったことだという。「旧友会だより」は年4回、

3400名の三越OB会員に郵送されているのですが、思った以上の反響でした」

投稿内容は、屋内スポーツで天候に左右されることなく手軽に楽しめ、かつ健康の維持・増進も期待できるボウリングを、定年後の趣味として推奨するものを。それは自身の定年後ライフを振り返っての、たしかに“実感”でもある。

「ボウリングはコミュニケーションスポーツ。退職すると仕事仲間との付き合いも難しくなるけれど、ボウリング場では新しい友人が大勢できて、足を運ぶのが楽しくなる。家でゴロゴロしてテレビばかり観ているのはもったいないですよ(笑)」

普段は自宅の庭で畑仕事に勤しむ傍ら、大宮・氷川神社の氏子総代をボランティアで務めているという安藤さん。文字どおりの「アクティブシニア」だ。

「ボウリングを楽しむ会」は今年も開催されるという。昨年は全国で151名の参加にとどまったが、安藤さんの件の投稿をきっかけに、今年は参加者がグンと増えるかもしれない。

取材協力: ウニクスボウル